

時間が経つのが早いもので、交換留学も残り数週間となりました。今月の報告書では1年間を振り返って留学を通して経験したことを書きたいと思います。

### 1年間を振り返って

留学前は、海外での生活が上手くいくのかの不安と、どんな経験ができるのかの期待が半々でしたが、授業が始まってからは毎日が楽しく充実した生活を送ることができました。

留学当初は、英語をほとんど話すことができなかつたため、授業の内容を理解するだけでも大変でした。クラスメートはサウジアラビア、ブラジル、中国など様々な国の人たちがいました。特にサウジアラビア人が多いように感じました。クラスメートと話すにも1回では聞き取ることができず、何回か聞き返すこともありました。国によって発音の仕方も違うため、単語のスペルを言い合って理解する場面もよくありました。今でも時々、スペルを言ってもらうことはありますが留学当初よりも少なくなり、クラスメートと冗談を交えながら話すようになりました。

授業は、先生と生徒の関係がとてもフレンドリーで授業中に何度も質問が飛び交っていました。生徒同士で話し合い、考える時間も多くありました。日本ではほとんどの生徒が先生に質問はしませんし、生徒同士で討論をすることも少ないように思います。こういった日本とは違う授業スタイルに最初は戸惑いました。また、私はエッセイに苦労しました。日本で何度も実験レポートを書いたことがありましたが、エッセイを書いたことはあまりありませんでした。さらに、日本のエッセイの書き方とアメリカでは違いがありそれを理解し書くということに苦労しました。日本ではエッセイの中に主観が入ることが良くあります。「私は～と思います」など、裏付けがなくても自分の意見のように書くことがあります。しかし、アメリカのエッセイではなぜそういう意見が言えるのかを必ず説明しなければなりません。そのために、色々なエッセイを読み、その内容を理解し自分のエッセイに組み込み、自分の意見が正しいことを説明しなければなりません。私の最初のエッセイでは、「なぜ?」「説明不足」などが添削後のエッセイによく書かれていました。今では、「なぜ?」など書かれることは少なくなってきましたがまだまだ改善する必要があるように思います。

授業以外の課外活動では、卓球クラブとテニスクラブ、JCTに参加しました。ここではネイティブスピーカーの人たちと話すことができたため、英語を話す練習にもなりました。特にJCTでは、日本語を学ぶ学生たちが集まるので、積極的に話しかけてくれました。ここで仲良くなった人たちとはよく週末に集まりパーティーなどをして楽しい時間を過ごしました。

また、今月中旬には日本語の先生を通して、RITの日本語クラスにゲストスピーカーとして参加しました。授業は、生徒の質問(日本語)に日本語で答えるといった内容でした。また、私も「なぜ日本語を学ぼうと思ったのか」を質問しました。特に多かったのはアニメ、漫画、ゲームが好きで日本語を学ぼうと思ったという答えが多かったです。やはり、今の日本のイメージというとアニメや漫画なのかと改めて実感しました。

留学の1年間は今までになく早く過ぎ、これまでになかった貴重な経験をすることができました。英語を流暢に話すまでには1年間ではできませんでしたが、身振り手振りを交えて英語でコミュニケーションを取れるようにはなりました。また、英語を通して様々な国の人たちと会話することができ、他の文化を知ることができました。これまで、日本で暮らしほぼ日本人としか話したことのない私には、他文化を肌で感じることであり経験となりました。

この留学の機会を与えてくださいました国際交流室室長 札幌野順教授、国際交流室の方々、指導教員である岸陽一教授、そして両親に心より感謝し、交換留学報告書の最後とさせていただきます。